

# 高退協ニュース

高知高退協  
事務局  
1996-11-19  
№83

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内二丁目一〇  
TEL 088-811-6822  
振替口座 徳島 511-1893

## 第五回全退教

### 全国学習交流集会開く



10月31日・11月1日の両日、群馬県の草津温泉を会場に、全国から90名の仲間が参加して「第五回全退教学習交流集会」が開催されました。

会のメイン・テーマは「憲法と教基法五〇年の年にとどう取り組んだか」ということでした。

テーマに相応しく、沖縄問題、女性参政権問題、総選挙闘争などが取り上げられ、各県での経験が交流されました。また、組織運営の課題として「支部活動の充実」が話題となりました。それぞれに創意工夫した、キメの細かい取り組みがなされているようでした。

記念講演「安保・沖縄そして日本国憲法の五〇年」では、新井弁護士が次の点を強調されました。「この五〇年は、憲法体系と安保法体系とが矛盾、拮抗する中で、憲法に依拠して闘った五〇年であった。しかし五〇年前の憲法制定

から発想するのではなく、この優れた憲法を入手した歴史の経緯や背景を近代百年の歩みの中で客観的に理解することが大切である。ただ客観的にだけでなく、われわれの主眼的な条件に引かれて弱さや欠陥に引きつけてふり返り総括反省することが重要であり、その上に立って、われわれ日本人の自力で平和憲法のもつ諸価値を実現し、必要なら改善を進めていかねばならない。」

第二日は分散会形式で、各県の活動状況を交流し、最後に全体会をもち全日程を無事終了しました。高知県からは西森稔、竹村昭三

岡崎清恵の三名が参加し、取り組み状況を報告して会の成功に寄与できました。なお全退教は、第二回全退教ツアーとして「沖縄の旅（一月一五日〜一八日・三泊四日）を計画しており、積極的な参加を呼びかけています。詳細については高退協に問い合わせ下さい。（岡崎）

## 四・プロ交流学習会

中岡 哲夫

第五回四国プロック学習交流集会は、十月二六・二七日海風荘で行われました。高退協からは、十五名が加、各県より八十名の参加で盛大に実施されました。今回は、山原十選、四国比例選挙勝利の後だけに「四国は一つ」のスローガンのもと大変な盛り上がりを見ることができました。来年の第六回集会は、愛媛の担当になります。

## 望年会 二案内

今年も望年会の季節になりました。お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

### 一、日時記

十二月六日（金）  
十六時半〜十九時  
（帰りの足下を考え  
少し早くしました）

### 一、ところ

高知城ホール

### 一、会費

五千五百円

ご参加の方は電話をください。

加藤まで

（七五一四五六四）

昼間は留守勝ちです  
十一月三十日（土）

## 消費税増税ストップで

### 緊急のお願い

高退協事務局

住専への血税の投入などの放漫、浪費のツケを、弱者の犠牲でうめようというのですから国民が怒るのは当然です。

選挙直後のNHK調査でも増税反対は国民の64%、自民党でも増税を公約にして当選した議員は5人に1人。国民も、国会も消費税の増税反対が多数派です。

- ① 同封の抗議ハガキを、できれば家族連名で投函ください。
- ② 消費税増税中止をもとめる請願署名にご協力ください。

## 「新年の集い」ご案内

1月5日（日）に恒例の高退協・山の会共催の「新年の集い」を次の要領で開催しますので、ご家族を含め参加ご希望の方は、12月20日までに、浜田昌俊（66-5907）までご連絡下さい。

一宮駅8時半集合、土佐神社、小倉山ハイキングコース、小蓮の古墳、長曾我部家の墓所、阿豊山歴史館（昼食）、国分寺、紀貫之邸址。

4時頃から、最寄りのレストランで、会費4千円。

なお、「新年宴会」のみに参加される方も大歓迎です。

<お当家>「山の会」南国・布師田地区

## 草声老詔

十月二十日、会員の山原さん十選を勝ちとる。四国から共産党代議士二名誕生。選挙制度改悪の中での大勝利／「議席を死守する」と鬼神の如く奮闘した候補者山原さん。高退協からも心から祝意をささげる。「おめでとございます。ご苦勞様でした」／さすが自由

民権運動発祥の地、高知県民は先駆的。オール与党の専政に大鉄槌／これからの政局の行方、興味津々。開票の結果、議席増は自民の二十八と共産の十一のみ。自・共対決の象徴か／二十一世紀は、自民党を軸とする専政推進勢力と、共産党を軸とする国民生活擁護の潮流とのたたかいになる。今度の総選挙はその前兆／「高齢者、団結せよ」／たまたかの先頭に山原さんあり。高退協も微力であるが頑張ろう／徹夜での開票速報を見てのとりあえずの感想。一〇・二二国際反戦デーの日。（幹）



### 訃報

会員の大谷昭雄先生が十月二十八日に死去されました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

↑↑↑

会員の安並正基先生は九月初めごろより腎不全のため入院治療中でしたが、十一月十二日死去されました。ご冥福を心からお祈り申し上げます。



「秦泉寺日記」抄 坪井 幹之

九月

「六日」七月中旬から子供達に遠慮して「夏休み」に入っていた「老泳会」再開。泳ぎがやや重くなった感じ。

「七日」高退協読書会、十名の参加。「坂の上の雲」で司馬史観を論ず。日露戦争を防衛なものとして捉えている著者への批判が論議の中心。次回十一月には対極的立場にあると思われる松本清張の「昭和史発掘」を取り上げることについてお聞き。あと四名で「竜馬茶屋」、「つくし」で論議の続きに興ず。

「十七日」高退協事務局会議。「ニュース」の発送準備に続いて、教育をテーマにした第2回学習会の開催、機関誌の編集などについて協議。

「二十九日」山の会」総勢十九名、讃岐富士に登る。山麓の駐車場より約一時間半で登頂。頂上には薬師堂あり。昼食、記念写真。展望台より讃岐平野を俯瞰。急坂の下り

道、四十五分。帰路、新設なる財田の「環の湯」に入浴、大野原より高速度路で帰高。

十月

「一日」高退協第2回学習会。テーマは教育問題。参加者は事務局のメンバーを中心に十四名。高教組執行部より「中教審答申」と「土佐の教育を考える会」の報告を受けて論議。教育をめぐる状況の変化と対応、今後注目していくべき課題。

「七日」高退協事務局会議。議題を列挙すると、学習会の総括、高齢者大会、四プロ交流会、研修旅行、機関誌の編集、望年会、ニュースの編集など。一つひとつ課題と方針を討議、とりくみを確認。

「十一日」しばらく御無沙汰していた「老泳会」に参加。平泳ぎ、クロール、背泳のメニューをこなす。プールの外は天高く、秋風爽やか。

「二十日」総選挙投票日。深夜の開票速報で山原さんの当選を聞く。小選挙区での勝利は歴史的快挙。

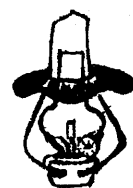
「二十三日」高知城ホールで「山の会」の打合せ会。二十名の参加。来年の英国、中央アルプス、ヒマラヤの三大山旅について検討。終了後、カナダツアーのスライド(山本さん)、ビデオ(加藤さん)の試写あり。想い新たなり。

「二十六日」手結の「海風荘」で開かれた全退教四国プロック交流集會に出席。会場は総選挙後の熱気に充つ。全退教松原事務局長の講演を聞く。全退教運動のめざすものが、親睦と交流、社会の進歩・発展に寄与する運動という点は示唆に富んでいる。翌日の山行にそなえて途中で退席。

「二十七日」山の会」十月例会で吾北村程野の戸中山に登る。参加者十五名。天気は快晴、気分爽快。十一時前に反射板のある尾根に到着。北側には石鎚山系の全景が展開。昼食後、名勝程野の滝めぐり。西滝、東滝の紅葉を觀賞。駐車場で再会を約して解散。十一月は阿波矢筈山に再挑戦の予定。

「老・眼・鏡」

「長英逃亡」(吉村昭) (新潮文庫) を推せん



幕末にシーボルトの弟子として、当代一の蘭学者といわれた高野長英は、幕府の鎖国政策を批判して投獄される。牢屋に囚われて五年、牢名主の立場を利用して牢外の下男を使って獄舎に放火させ脱獄。江戸市中に潜伏した長英は、弟子の許などを転々として脱出の機械をうかがうが、幕府は威信をかけて凄まじい追跡をはじめ。幕府は全国に人相書と手配書を送り大捜査網を敷く。その中を門人や牢内で面倒をみた侠客らに助けられ、故郷の水沢(岩手県)に住む母との再会を果たす。その後念願であった兵書の翻訳をしながら、米沢一宇和島一広島一名古屋と転々とし、硝石精で顔焼いて江戸に潜伏中を逮捕されるまで、六年四カ月を緊迫した筆に描く。

口上 小川 逸雄

私は駄羅漢、身上は青蛙、心情は河童、逸仙と号す。駄羅漢を思う。駄羅漢は羅漢のなり損ない。或いは羅漢か。悟道は探らず、無道に生きる。駄羅漢は強烈な個性の持ち主である。一癖も二癖もある人物である。五体は自由に遊び、思惟は無碍に羽撃く。逸人にして狂人、而も後光ならぬ俗臭を有す。

駄羅漢は言動すべて常軌を逸す。俗人の見るところ意に介する所に有らず。皮肉が身上、ただ意のまま心の儘に自然を友とするのみ。人間界では異骨相と言う。私はこういう駄羅漢に学び、せいぜい虚空夢想の世界に遊ぶうと思ふ。手掛けるは詩文絵画。達磨は洞窟に對座し、陶淵明は歸去來と叫んで南山に對して棲む。我が寓居は市井にあれど白雲あり。

井の中の青蛙、世のことは知らず時に地表に現われて「ここに蛙の候」と歌い上げることもありますが、小さい声、一寸の虫にも五分の魂、人に知られずともよろしいですがどうぞ踏みつぶさないでください。心は河童、すね者ながら月下に瓢箪を仰ぎ見てははかない夢を夢見て暮らしています。仙人はやとも想いますが逸してしまつた逸仙でもあります。

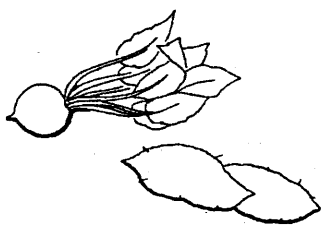
井の中に 何して暮らすや 青蛙

讃岐・萩原寺

山門の風に立ちつゝ萩を見る さちを  
客殿の句座静かなる萩の寺 みち代  
萩の枝重なりて崖なだれ咲く 敬子  
片側は萩の懸崖続く道 たねを  
萩寺の萩の見頃と訪ね来し みち代  
日もすがら琴流れくる萩まつり さちを  
旅人に里人やさし萩やさし 青 幹  
白萩のやさし半東の袖に揺れ 伸 秋  
久闊の人みな健や萩に会う 青 幹  
丹の褪せし山門ゆかし萩の風 伸 秋  
琴の音に誘はれ萩の茶席かな たねを

河童の里は狐狸の里  
川の淵より這い出ては  
銀杏の下で踊り舞い  
羅漢さんもこれに和す

赤鬼山の彼方には  
臙に照らす月明かり  
瓢箪ぶらり夢見ては  
追うは儂い夢語り



以上が梗概ですが、世に先んじた者の悲惨な運命、生命がけで恩師をかまくまう師弟愛等、読者に迫るものがある。特に山内容堂と同時期に活躍した宇和島藩主伊達宗城(むねなり)が、逃亡中の長英を招いてかくまう。ところ等、幕末にはその支配権力に相当ヒビが入っていたことを窺わせる。その隠れ家が、宇和島近くの「卯の町」にあると書いてある。今度の高退協旅行地の中に加わっていないのが、まことに残念であるが、近いことだし一度訪ねてみたい。(浜田)

### 教育をテーマに 第2回学習会ひらく

10月1日、高退協の第2回学習会が高教組の山下委員長、熊沢教文部長を講師に、13名が参加して行われました。論議のポイントは

#### 学校のリストラ

今年7月、第15期中教審は「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という第一次答申を発表しました。

答申は、過度の受験競争が「ゆとり」を奪う要因だと緩和を説いているもの、国民教育の基礎となる共通履修をさらに圧縮して一層の多様化をすすめるようとしています。

そのことは、「学校（基礎、基本教室）」の周辺に「自由教室」と「体験教室」を配置して、「学校をスリム化しよう」という経済同友会の提言（学校から「合校」へ）を直接反映するものといえそうです。

#### 条件を生かす運動を

こうした教育行政の行き詰まりと教育に対する国民の切実な要望から「土佐の教育改革を考える会」が6月からスタートしました。これからの議論では、研修は自主性を基本とするのと、採用の公開と年令制限の緩和、管理職登用の見直しなどが提言されています。こうした情勢の変化を生かすよう運動を発展させることが大切だと、学習会で強調されました。

### 研修旅行報告

窪田一郎

昨年長距離すぎた反省にたつて、愛媛の中央山間部をコンパクトに廻ってきました。



### 請願署名にご協力を

今年も「行き届いた教育をすすめる」請願署名がスタートしました。昨年は全国で二四五五万、高知県で約一三万の署名を国会に提出、教育を守る大きな力になりました。現在、高退協事務局に85筆の署名とカンパ3千円が寄せられています。

大洲で昼食後、内子に向い退職教員のボランティア片山氏の案内で約3時間町内見学、内子座、町内の博物館、資料館とともに保存地区の町並みを歩きました。内子ではいま六家に分かれていた芳我家が、江戸時代から木蠟で財をなしたというのですが、上芳我の邸を見ましたが豪華なもの

### 来年の山旅のお誘い

「山の会」は来年、次のような三つの山旅を計画中です。参加ご希望の方は、坪井（75-0998）までご連絡下さい。資料をお送りします。

1. (6月中旬の12日間) 嵐が丘、湖水地方、スコットランドを巡る、花と緑の山野を歩く旅です。
2. (8月1日から6日までの5泊6日) 深田百名山のうち木曾駒ガ岳と空木岳に登山、帰途、御岳山麓の秘境開田高原に立ち寄ります。
3. (10月、12日間程度) 「神々の座」エベレスト・アンナプルナ・ダウラギリの展望を楽しむネパールヒマラヤのトレッキングです。

です。一方木蠟の労働の苛酷さは大変だったようで作業歌にもよくそれが表れています。

一三日は五十崎で風博物館、和紙会館を見学、世界各地の風、大風が眼を引きました。続いて砥部の梅山寮、久万美術館、美川の上黒岩縄文遺跡、重文山中家住宅を見学しました。久万美術館では若い学芸員が解説してくれましたが、中々の勉強家ということと、館への愛着がよく伝わってききました。また小さな町でちやんとこうしたプロを置いていることに感心したところでした。

泊は大洲でしたが楽しい夕食時、酒がくるのが遅いのが難でしたが、とっておきのかくし芸も披露されました。一二月六日の望年会での再演を期待したいものです。

ご五時四十分、予定より二〇分おくれで高知駅まで帰ってきました。



### 旅のしおり

香港

返還前の香港を見ておきたいと、9月に家族旅行を計画した。啓徳国際空港に着いたときは台風の影響でひどいどしゃぶり、この時期はとて多雨が多く、お正月前後が一番いい季節だとのこと。2泊3日と短いのでメニューは定番海鮮料理、夜景、ショッピングがメインの1日観光と、半日自由行動となる。まずは夕食、隣の大広間は結婚披露宴、麻雀の音が聞こえてくる。香港へきたら海鮮料理をといわれているとおり、見た目にも美しく美味。メインの夜景見物は最悪の天候。島の展望台からは雨雲がかかって見えないだろうと言っているので、中腹にある狭い見晴らし所

### 会員の消息

(横田達夫さん) 七月中旬植木の手入れ中に手足に大ケガ約三ヶ月入院、今家庭でリハビリ中。  
(岡秀雄さん) 自転車で信号待ちのところ自動車に追突され一ヶ月入院後、現在は家でリハビリ中。  
(稲垣茂さん) 兵庫 加古川市在住 入院加療中。

◎皆様の一日も早いご全快をお祈りします。

(矢野川瀧男さん) 一水会入選。  
(片岡文雄さん) へ風賞受賞(詩人による詩の朗読会で最優秀賞)

◎おめでとうございます。  
(西山益子さん) 転居  
〒651-22 神戸市西区  
純台二丁目 1715  
田中様方 血〇七八一九九二  
一八五七五



で見ることとなる。百万弗とは言えないとガイドが気の毒がった。下の船上レストランの夜景(つまらなかつた)とあわせて七十万弗くらいかと説明されて、皆がっかりしながら吹き降りの中に降り立った。そこには雨にけぶる香港が浮かんでいた。夜景は何処で見ても美しいと思うがどれも平面的であった。佐渡島とほぼ同じ面積の香港は人口六百万、それが香港島と九龍地区に集中し超過密状態。生活の場は空中しかないと、そこに生活の明かりがともり立体的で深みのある夜景が生まれることになる。空港が市街のど真ん中にあるため、またたかない夜景はかえって俗気がなく、雨の中の風景のようで、雨も風も忘れさせられた。翌日、もう一度見たいと夕食後タクシーをとばした。くつきりとした美しさであったが、雨に煙る夜景の衝撃は忘れられない。自由時間にフェリーに乗り景色を眺め、二階建電車や地下鉄に乗り歩いて観たとき、香港を一段と身近に感じた。漢字の国、顔つきも違わない、ただ言葉だけが不自由だったが、雑然とした香港はとてなじめた。近いうちにまた行きたい。

# すてきな女

## との出云い

梅原 憲作



相変わらず「映画貧乏」に泣かされ続けているが、映画と高校生ゼミ活動に關わっていると思わぬ功徳もある。すてきな女に出会えることである。

「ピキニの海」では吉永小百合さん、今回「渡り川」では加藤登紀子さんとの出会である。そのチャンスは降って湧いたように訪れた。

九月十五日、加藤さんはコンサートで来高、忙しいなかで幡多ゼミOBたちとの二年ぶりの再会のチャンスを作って頂いた。

加藤さんと幡多ゼミが最初に会ったのは二年前の八月、アジアと川をテーマの公演活動で来高、西土佐村の四方十川で交流して頂いた。丁度この年、94年3月「渡り川」が完成、全国的に大変話題になっており、映画とこの日の映像は加藤さんのナレーションで、筑紫哲也ニュース23で取り上げられた。

今回も主催者団体の肝入りで再会をお願いしたら「あの友達に会いたい」と二つ返事で快諾頂いた。

この日正午過ぎ、コンサート会場となる県民文化ホールロビーで車座に座つ

て待つゼミ生やOBたち14名の前に、まるでステージに現われるように黒の普段着のパンタロンスーツで階段を降りて来られた。

「その後どんな活動しているの」と気さくな問いかけに高知市ゼミの3年生の一人は、緊張気味に「昨年戦後50年、韓国へ平和共生の旅、今年はずん天間高校1年9組の呼び掛けで沖繩に」と答えると、「私も何度か沖繩に行ったが、復帰後74年初めて行ったとき6月23日を知らなくて大変恥ずかしい思いをした」と自分のことをさらけ出し、「これからは高校生の時代」と言い、「60年安保の高校生の時、自分は本当のことを何も分かっていない」という不安を感じていたが、行動で得たものは大きかった。どんな行動してほしい」と語った。

二年前愛用のギターに西

あの大鵬でも幕下入りは十八才であった。そんな状態の中へ、十八才の高卒生がいきなり幕下で入ってくるのは均衡上どうも、というところで幕下付け出しは二十才以上としたのではなからうか。

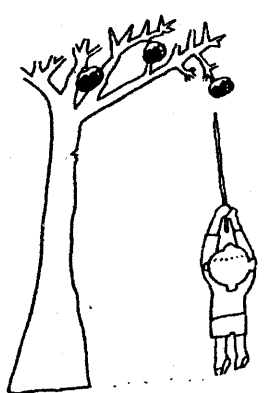
二、年令の上限について  
前相撲から入門する場合は二十才未満、幕下付け出しは二十五才未満、となつており二才の違いがある。

これは、社会人選手として活躍している内に幕下付け出しの実績をあげて、その機会におそまき乍ら入門を決意するような選手のため、門戸を開いたものであろう。それでも、妻子持ちの高校教員から入門（平成四年三月）して話題を呼んだ智乃花は二十七才であったので、現在の規程なら智乃花も生まれていない。

三、入門規程について  
一般社会では、努力、根気、運などで頑張つて行くこともできるが、相撲界は

土佐で「いつかであつた花を咲かそう」とサインしてもらったものを急遽下宿から持って来たOB田村大作君から受け取り演奏を始めようとした。「あら、全然ダメじゃないの」とチューニングから始めた。その手つきと穏やかな表情は、夕べのひととき洗濯物の繕いをするお母さんの姿であり、その顔には高校二年生のお嬢さんがいると書いてあった。

最後は韓国の高校生らとの出会いを作詩、作曲して別「友情の川」を合唱して別れた。夜は全員がコンサートに招待をうけた。言葉どおり天井棧敷、最上段から見下ろす加藤さんの顔は大粒だったが、昼間の間近での表情と重ねあわせて十分堪能できた。



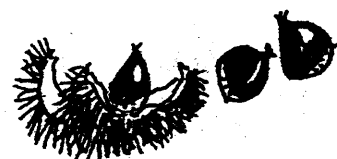
一定以上の体力、素質がなければ、どんなに頑張つても耐えてゆける世界ではないので、単なる物好きで入つて来る者は居ないと思われ。

従つて、新弟子希望者が多すぎて相撲協会が困るといふことはないと思うので本人、家族、親方が承知の上でやると言うのなら、規程にこだわつて門前払いをせずに入門させたらどうであらうか。

そうすれば、現在の規程では入門できない力士は小兵では前回書いた舞の海や名人大関と言われた大ノ里（大正中頃から昭和初期、資料によつて違つて一六〇才余り、九〇才くらい）、年令超過では智乃花や同じく二十七才入門の玉乃海（一度廃業していたが昭和二十五年五月幕下付け出しで異例の再入門、最高位関脇、優勝一回、玉錦の弟子）などの逸材に行き当た

# 健康手帳

中岡 哲夫



押すだけで疲れが取れる  
ひざ裏健康法  
血液循環を促進させ、老廃物を追いだす。

二人一組で実施する

1. 楽な姿勢でうつ伏せになる、足は六〇度に開きます。
2. ふくらはぎをマッサージュ、所要時間は一〜二分です。
3. 脚を九〇度に持ち上げる、右利きの人は左足から。
4. 足首の関節をまわす、右回りに三回、左回りに三回。
5. 足の裏をマッサージュ、土踏まずからかかとの順に一〜二分。
6. 足の指をマッサージュ、親指から順番に小指まで。
7. 脚を下ろして膝窩動脈を見つめる。あわてず、ゆっくり探します。
8. 膝窩動脈をおします。両手の親指で一回約三秒間。
9. 親指を離して軽くマッサージュ、ふくらはぎを中心にやさしく。
10. 整理体操を行います、足を折りたたむように曲げます。



# 相撲三知識 十七

林 勳

## 力士入門規程（2）

一、年令の下限について  
前相撲から入門する場合は義務教育終了（十五歳）から、幕下付け出しは二十歳以上、と五歳の違いがある。

怪物君と言われた久島（大相撲の久島海）は高校三年の時（昭和五十八年）全日本選手権で優勝している。当時は幕下付け出しの明文規程はなかったが、その時入門すれば（久島は日大へ進学）恐らく幕下付け出しであったと思われる。